

令和6年度 第2回
都市交通における自動運転技術の活用方策に関する検討会
議事要旨

1. 日時

令和6年12月16日(月) 15:00~17:00

2. 出席者

＜委員＞森本章倫座長、糸久正人委員（WEB 参加）、大串葉子委員（WEB 参加）、小木津武樹委員（WEB 参加）金森亮委員（WEB 参加）、中村文彦委員、藤原章正委員、森川高行委員

3. 議事

- ・ 都市空間における自動運転技術の活用に向けたポイント集（案）について

4. 議事概要

（事務局より説明を行ったところ、委員からの意見は以下のとおり）

- 先進的な取組み事例が自動運転と直接的に関係が無いものだと自治体の方に誤って捉えられないよう、（一見自動運転と関係なく見える先進的な取組み事例でも）参考にすることで自動運転時代にさらに望ましい姿に近づくという説明を各事例に記載してはどうか。
- 自動運転技術が普及すると、都市局が推進するコンパクト・プラス・ネットワークとウォーカーブルな都市づくりに対して逆行する可能性があるため、自動運転が社会実装される時代には、大前提として、まちのマネジメントを行う必要がある旨の記載をしておくべきである。
- 手動運転から自動運転への小さな変化が、都市全体の土地利用や都市構造をも変えることを伝えることで、イラストの意義が見いだせるのではないか。
- カーブサイドに関する記載があるのはとても良いと思う。カーブサイドの利活用に際して、デジタル化が進展する中でカーブサイドの管理が高度化する雰囲気が出ると良いと思った。
- 先進的な取組み事例を紹介する際に、自動運転を考える際に参考となるポイントを追加してはどうか。
- カーブサイドをデジタル化することで情報が取得できるため、管理も可能になる。空間の設計、制度及び制度をふまえたプライシングは自動運転が実装される時代には柔軟に対応可能になると思うので、プライシングに触れていただきたい。
- シェアモビリティの運用は、様々な事業者や運行管理者が複雑な組織関係の中で取り組んでいる。そこにポイント集で触れなければ（シェアモビリティを導入したくても）運用に至らない可能性もあるため、各種モビリティの事業者には担い手がいることも記載する必要がある。

- 各種取組みの相互関係や、全体を一気通貫で進める際にどのようなステップを踏めば良いか分かると、自治体も扱いやすいのではないかと。
- 先進的な取組み事例について、自動運転時代には取り組んだ内容がどのように関連していくのか、分かりやすく紹介されると良い。
- 先進的な取組み事例に記載されている効果は、導入時の目的が達成されたかの観点から記載が必要ではないか。
- 「交通結節点」と「モビリティ・ハブ」の定義を明確化していただきたい。
- 自動運転としてイメージするロボットタクシー等の動向が記載されると、ポイント集を自治体の方々に興味を持って読んでいただけるのではないかと。
- ロードプライシングでの収入を公共交通に充て、公共が財源を一元化している事例等、財源関係の事例も掲載してはどうか。
- 完全移行期に想定する次世代モビリティの種類を明示してはどうか。
- ワイヤレス接触給電等のインフラ関係の内容にも触れてはどうか。
- 先進的な取組み事例をふまえ、最終的にコンパクト・プラス・ネットワークを実現できるといった道筋が見えづらいため、構成の整理が必要である。
- 先進的な取組み事例について、各事例がどのように自動運転に活用できるのかを記載いただきたい。
- 今後、最新事例が出れば、ポイント集のバージョンを更新して反映していくものと考えている。アップデートを前提に現時点での知見として事例をまとめていただきたい。
- 第4章は、既存計画、都市計画マスタープランや総合戦略を作成する際に自動運転に関連する内容の記載の仕方が分かるようにしていただきたい。
- 全体の概念図が欠けている。自動運転は、上手に導入すれば、コンパクト・プラス・ネットワークの政策を前に進める良い機会である。そのあたりの議論もふまえて、まとめていただきたい。